

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200443		
法人名	社会福祉法人 鶴寿会		
事業所名	グループホーム さわやか		
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字笹畑8-3		
自己評価作成日	令和 4年 9月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周りの散歩をしながら栗拾いや梅採り等季節ごとの楽しみがあり、採取したものを中で皮をむいたりヘタを取ったりとそれぞれに出来る事を分担しながら協力しあって食事の場に繋げています。中庭でも季節ごとの野菜を育て苗を植えたり肥料をやったり収穫をしたりと毎日の成長を廊下の窓から360℃見ることが出来食べごろが来るのを心待ちにしております。職員も皆さんも明るく利用者に寄り添いレクリエーションやゲームに工夫を凝らし、午後のおやつ時には毎日皆さんの大好きな歌を唄い、大きな声を出すことを意識し大きな笑い声にもつながっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川崎町から秋保に通じる国道457号線沿いにホームがあり、特養や軽費老人ホームが併設されている。周囲を山野に包まれ自然豊かである。年度初めに皆で「一人一人の思いに寄り添う…」を理念に、思いを心に刻み、入居者に寄り添い、大事にするケアに努めている。ドライブで釜房湖畔公園や定義山、近くの景勝地へ行ったり、町の馴染みの商店での買い物を楽しんでいる。面会は玄関や居室で行い、家族や友人が来訪している。散歩時の山菜採りや中庭で野菜の栽培、大きな声で歌を歌い入居者同士は自然と仲良くなっている。目標達成計画の「移乗方法等の勉強会を行う」は、支援仕方や前後動作の研修を行い達成している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年10月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム さわやか)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新年度に職員全員にて意見を出し合い、高齢者の基本理念をもとに自己決定の尊重、残存能力の活用、継続性の尊重などを盛り込んだ理念を考え、毎朝出勤職員全員で唱和をしてから仕事に携わっています。	職員は「一人一人の思いに寄り添いながら、自己決定ができる支援を行います」の理念を心にとどめ、朝礼時に「散歩を楽しく」や「出来ることを支援します」等、その日の目標を発表して、ケアに励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染が長引き終わりの見えない状況で社会的活動の機会がかなり失われてしまっているが、選挙の際には期日前選挙に声かけしたり、施設周辺の散歩やドライブ、買い物等出来る事を模索しながら地域とのつながりを持てるよう工夫しています。	区長が毎月町の広報誌を届けてくれる。町から交付されたクーポン券で、町内の馴染みの商店やドラッグストアで買い物を楽しんだ。家族から野菜の差し入れがあり、地域の農家から米を購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	JA主催のペットボトルのキャップとゴウヤの苗を交換してもらい、グリーンカーテン目指してみんなで育てました。カーテンの出来具合を外からと中からの写真を撮りJAさんのコンテストに応募しています。みんなで力を合わせて育てている様子など地域の人に見て頂ければと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族の方にも参加いただき取り組み状況などを報告しています。その際に自然災害時の取り組み方やコロナワクチン接種等の話し合いも行われ安心安全につながるサービス向上に活かされています	法人の4事業所合同で、社協会長や町職員、地域包括職員、行政区長、家族等の構成で、年6回開催している。うち2回はコロナ禍で書面会議とした。メンバーの主な意見は感染対策やワクチン接種等である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎町主催の研修は度々中止になることがありましたがケアマネ研修は毎月行われ各事業所の困難事例などについて意見を交換しあい協力関係を築いています。	運営推進会議に町職員や包括職員が出席し、町の感染状況や対策について話をしている。ケアマネ研修会でてんかん発作の勉強をした。町と共催して権利擁護の研修会を開催するなど連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の都合上玄関の鍵は施錠していますが日中は解放しており玄関先にて外気浴等楽しめるようにしています。身体拘束については職員一人一人が身体的・精神的な弊害を理解し廃止に向けた意識を持てるよう取り組んでいます。	3カ月に1回「身体拘束・高齢者虐待防止法」などテーマを決めて委員会を行っている。ベッドから転落しがちな方には柵は使用しないで床に布団を敷いている。トイレが頻回の方を抑制しないで、笑顔で誘導している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待防止委員会も同時に開催し委員が中心となって基本的な学習を行い常に適正な介護支援を求められるよう意識を高め合っています。	毎月職員会議終了後に虐待防止について勉強会を行っている。「なんで出来ないの」や「もう忘れたの」等の言動を振り返り、しないように話し合ってる。職員面談で出来た成果を評価し、向上心につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援は高齢者支援の基本理念としてとらえ個人を尊重したサービスを提供できるよう学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には重要事項説明書や利用契約書をもとに十分な説明を行いご家族様や利用者様が不安など抱くことが無いよう対応を徹底しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会の場にご家族様の代表の方にも出席していただきご意見を頂いています。また面会時や電話においても気軽に意見を頂けるような雰囲気づくりに努め運営に繁栄させられるよう努めています。	家族から意見や要望はあまり聞かれない。「安心してお任せしています」や「感謝しています」の声が多い。町外の家族から面会について質問があり、玄関先や居室で2名以内の人数で面会が可能であることを伝えた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時には全員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努め申し送り時、又は業務日誌に書き記し気軽に意見や提案を出していけるようにし、みんなで共有し反映させていけるよう努めています。	職員からホームの清掃や清潔保持、衣替えや寒さ対策などの提案がある。要望があった電気ストーブを購入し設置した。家庭の都合で夜勤が出来ない等の相談があり、日勤専門に変える等希望に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行っておりその際に努力、チャレンジ、貢献できたことなど自己アピールし考課に反映できるようになっている。個々の努力や実績を把握し向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為にリモートでの研修が殆どでしたがリモートに不慣れな職員も互いに教え合いながら積極的に参加できるよう研修の機会を確保してきました。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員交流座談会というような研修にも積極的に参加し同業者との交流やネットワーク作りにも努めサービスの質を向上させる取り組みを行っています。	グループホーム協議会のリモートでの座談会に参加して、他事業所の運営や就業等の情報を得ている。町主催のケアマネ会に毎月参加し、各事業所の事例発表や事例検討があり、会長から助言がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たり不安に思っていることや困っている事、又は要望等の聞き取りを行いケアプランに繁榮し職員全員で共有し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先立ち十分な説明を行うと共にご家族様の立場での不安や困っている事、要望などに耳を傾けより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの為の情報収集シートをもとに家族と本人が必要としている支援を見極め適切にかかわっていけるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本的な考えとし、本人の想いを傾聴し寄り添いながら信頼関係が築けるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話の取次ぎ等気軽に行えるような雰囲気づくりと近況を報告し密に連絡を取り合いながら家族との絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望に応じた個別支援で馴染みのあるお店で買い物をしたり知人の方が気軽に面会に来られるような雰囲気づくりに努めています。	町の中心部にある馴染みの店へ洋服や日用品など買い物に出かけている。通院の帰りに自宅で食事をしてくる方もいる。実家近くの天神様に参拝し、大きな木があったことや昔の思い出を職員に話してくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リクリエーションや散歩など利用者同士が気軽に話せるような雰囲気づくりを心がけており、一人ひとりが孤立せず良好な関係性を保てるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に訪問したり連絡を取り合えるような関係性を保ち、家族の経過を見守りながら、相談や支援に努めるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその都度意向を確認しながら本人に寄り添っていくことを大切にしています。一人一人の思いや暮らし方の希望が少しでも叶えられていけるよう努めています。	「おにぎり何個食べますかとか」、「入浴は何番目が良いですか」などと、その都度意向を聞いている。「まだ一人で暮らせるのに入居させられた」等の話を茶の間で傾聴し、徐々に心を和らげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集にて本人のバックグラウンドを把握しこれまでの生活環境と少しでも継続性のある生活に近づけていけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、健康状態等を日々記録し、職員間で情報を共有しながら、利用者様の現状の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの意向を本人やご家族様に伺って、作成、実施し、モニタリングを行いながら、その人にあったケアプランが作成できるように努めています。	毎週のカンファレンスや毎月の職員会議で意見を聞き、6か月毎に見直している。本人希望の「仲良く暮らしたい」等を支援している。A DLが低下し歩けなくなってきた方に、車いす移乗やトイレ介助等を支援に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子を個別に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしたり、より良い支援が行えるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の現在の状態に合わせて、これまでに行ってきた支援にとらわれずに、支援を変更したり、ご家族様とも密に相談できるような信頼関係構築を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を把握し継続した関わりを持てるように支援するとともに、季節ごとに採れるものや畑を利用して、収穫できる事でその人の生きがいを生み出せるように支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医にて適切な医療を受けられるように支援し、家族と密に連絡を行いながら、健康状態を記録し、適切なケアに取り組んでいます。	協力医をかかりつけ医にしている入居者が多く、月1～2回の通院を家族か職員が同行している。協力医が夜間や緊急時等も対応している。法人の看護師がフォーレの管理や痰の吸引に来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職員がいない為、利用者の急変時等には、法人内の他施設の看護師へ連絡し、相談を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には入院までの状況やサマリーを病院に提供したり、病院や家族とも密に連絡をとり、情報交換や相談しながら、安心して治療に専念できるように支援しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針をもとに事業所内で出来る事と出来ない事について家族と話し合いながら、方針を共有して、その人に合った支援に取り組めるようにしています。	入居時に「ターミナルケア(看取り)指針」を本人や家族に説明している。重度化に伴い医師の説明や意見を基に家族と相談を重ねている。入院を希望する方が多く、しばらく看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練実施の中で、AEDの講習会を行い、利用者の急変や事故発生時迅速に適切な初期対応ができるように全ての職員が実践力を身に付けています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルに沿って、火災や地震等利用者が適切に避難できるように、隣接する同法人施設や地域との協力体制を構築しています。	昼間と夜間火災想定避難訓練を、特養や他2事業所と合同で実施している。歩行が難しい方は車イスを利用している。他事業所の職員が協力し誘導している。地元の消防団から支援の意向がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を理解し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉を用い敬意をもった接し方が心がけ、人格を尊重した対応を心がけています。	年に3~4回権利擁護等の勉強会を行っている。呼び名は苗字か名前にさん付けでしている。着衣の際、急がせずに本人が着やすい言葉かけを行っている。失敗時は耳元で小さい声で誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活場面において常に声かけを行いながら自己決定を促し、利用者の希望の表出を見逃さないようにコミュニケーションを図っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間帯や順番などどうしても職員の都合が優先されがちになってしまいますが、常に声かけを忘れず一人一人のペースを大切にしながら希望に沿った支援につながるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の普段着でも清潔感を忘れない身だしなみに気を付けられるよう声かけし、又外出や買い物、行事参加の際にはお化粧をしたり髪飾りやネックチーフ、男性はワイシャツにネクタイ等おしゃれを楽しめる日を作っています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の希望メニューを取り入れながら季節に応じた食材を使用し季節感を味わっていくと共にそれぞれの得意分野で食事準備に携わっていくことで食事が楽しみなものになるよう配慮しています。	職員が献立や調理を行い、入居者の希望は誕生日会に活かしている。カツ丼や生姜焼きなど肉類が好まれる。餅つきやちらし寿司、栗ご飯等、季節の行事食がある。稲荷を皆で詰めて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂取することに量を記入し食事の量も把握できるようにチェック表を使用し総合的な量を把握できるようにしています。状態に応じて食事の形態を変えたり好みの飲み物や栄養補助食品を使用したりして栄養摂取や水分確保の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行い口腔内の清潔保持に努めています。本人の力に応じて声かけだけであったり、誘導して介助を行ったり徹底した支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを元に一人一人の排泄パターンを把握しさりげない声掛けや誘導を行い少しでもオムツの使用を減らしていきけるよう自立に向けた支援に取り組んでいます。	声掛けや誘導は、食後やおやつ後の他、変わった様子や個々の排泄パターンで行っている。全員トイレで排泄している。夜間は見守りが主で、オムツの方には定時に声がけし、トイレかポータブルに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時は排便の量や便の状態を確認し体調の確認を行うと共に、便秘の場合には下剤等を服用したり、運動や繊維物の多い食事を提供し、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせながら、入浴を楽しんで頂き、又、お湯の温度等も声がけしながら、個々の好みに応じた支援を行っています。	1日置きの入浴が定着している。入浴の確認や順番を聞いている。拒否する方はおらず、希望で翌日にする場合もある。歌が好きで歌いながら入浴している方もいる。足が不自由な方を2人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時のご本人様の状態に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように寝具類の調整を行いながら、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用している内服薬を処方箋ファイルで確認しながら、用法や用量について理解し、服薬の支援と副作用等の症状の変化の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、役割を活かし、その方の能力を見極めながら、楽しみや生きがいを持てるように支援しています。時には気分転換も兼ねて、園内外での散歩を行っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス流行中の為、外出が出来ていない状態ですが、季節ごとのドライブや玄関先での外気浴や施設周りでの散歩は行っています。それ以外でも施設内でのゲームや季節毎の行事を行いながら、楽しんで頂けるように取り組んでいます。	季節ごとに釜房湖畔公園の花見や定義山参拝、近くの景色などを見にドライブした。近所の散歩では蕨や蔦、こごみなど山菜採りを楽しんだ。ホーム内の梅の実で梅干し作りをしたり、道路脇の栗拾いを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて、ご本人様で金銭管理をしている方もいらっしゃる、買い物に出掛けることで、お金を使える事の楽しみに繋がるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な人との手紙のやり取りや電話をかけたり受けたりが気兼ねなく出来るようにその都度対応しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には季節毎の花々を飾ったり、中庭には花や野菜を育てて一緒に収穫したり、季節感を身近に感じる事ができるようにし、居心地良く過ごせるように工夫しています。又室温の調整も細かく行い時間ごとの換気も行っています。	食堂は日当たりが良く明るい。壁に落ち葉の貼り絵が飾られ季節を感じさせる。畳敷きの茶の間で食後掘りごたつで寛いでいる。回廊の中庭にキュウリやミニトマトなど数種類の野菜を植えて楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場のコタツスペースでは、コタツに入りながら、利用者同士でお話ができたり、テレビを見たり又廊下側に足を下ろし日向ぼっこしたりとそれぞれ思い思いに過ごせるよう、座布団や枕などを用意し居場所づくりの工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や好みの家具等を配置し、本人が居心地良く過ごせるように工夫しています。	備え付けの洗面台やチェストがあり、全室床暖房が入っている。ベッドや筆筒、イス、衣装ケース、鏡、時計などを持ち込み、家族の写真等飾って過ごしやすいようにしている。位牌や遺影を置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にカレンダーや時計を設置しており日付や時間を意識した生活を送れるような配慮をしています。バリアフリーで廊下やトイレには手すりが設置されており自力歩行や自力での立ち上がり等に役立っています。		